

jormungand military chronicle

-vol.1-

「ヨルムンガンド」そのディープな
ミリタリーコンテンツを紐解く

ヨルムンガンド ミリタリークロニクル

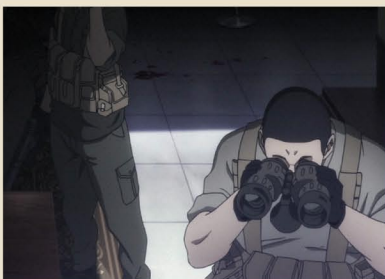
「ヨルムンガンド」の魅力の一つとして、作品に登場する銃器、そして装備品に関してのリアリティが挙げられますが、特に装備品に関しては他に例を見ない造詣の深さに驚かされます。

当コーナー「ヨルムンガンド・ミリタリー・クロニクル」では、そういった本作に登場する銃器及び装備品の深さをピックアップし解説していこうと思います。

第1話：LBT部隊

アニメ化されるにあたってまず最初に「おおっ」と思うのは、第1話からココ部隊のメンバーがLBT社のチェストリグ等を既に装備しているという点ですね。コミックスでは後半になってから採用される装備品ですが、アニメでは初っ端から登場します。

このチェストリグはLBT社の1961Aというモデルで、現在の米軍特殊部隊が採用しているベストセラー。意外と息の長いデザインで、その原型は他メーカーから九〇年代には作られていたとも



コミックス版の初期装備だった、いかにも傭兵っぽいタクティカルベストも好きだったんですが、さすがにLBTやイェーグル、ブラックホーク等の装備品がこれでもかと登場するアニメも、過去に前例がないのでは。

言われています。

基本的にはM4といった223口径のアサルトライフルに対応したのですが、他にもミニミ軽機関銃のマガジンに対応したものの等バリエーションも豊富にあります。アニメをよく見てみると、ストラップの余った部分をテープでまとめたりと芸が細かい。

銃器に関しては、ココが最初にヨナに手渡したブローニングHP、そしてアサルトライフルはご存知FNCのカービンモデルです。他のメンバーと違ってヨナ

の愛銃はどちらも非常に洗練(笑)。

そして第1話でちょっと気になるのがクロシキンのもとへ向かう時に、ココからヨナへ渡されたガバメント。金色のパレルや3ホールトリガーだったり豪華にカスタムされた一挺が気になっていたので、これはカスタムガバメントで有名なウィルソンコンバットをモチーフにしているとのこと。

第2話：CCAT社

第2話ではHCLのライバル？カリ社長率いるCCAT社が登場。個人的にもミルドとルも含めて大好きで、彼らの装備品は何かと考証してみると着用しているタクティカルベストはLBT社の6034B。

タクティカルギアに詳しい人でも「?」と一瞬思わせる程マニアックなセレクトです。個人的にもコレきっかり欲しいなと思いついて探してみましたが、完全に同モデルはそう簡単には見つからな

い：でした。はい。



ヨナは近代的なカスタムガバメントを構えても画になる少年！？ たった一度の登場かつ一発も発砲することなかった一挺でしたが、あのカッコイイガバメントはなんだろう…と思っていた人も多いのでは。

第3話：オーケストラ

イタリア出身の師匠とその運命を共にしたチナツの愛銃は、やはりイタリアの最大手銃器メーカーであるベレッタ社製のオルゴールに使われたのがM92F。そしてチナツのハンドガンはM84。師匠はM800クォーター。とここまででは順当なものそれ以降が面白いですよね。

第4話：オーケストラ

まず師匠がココ襲撃時に使ったのがA



ミニミよりなんとなく名前がかっこいいネゲフ。ベルトリンクを垂らした撃ち方がまた師匠らしい。君は遠目から一目でネゲフと判別できるか!? できたらココからスカウトされるかも。もしかしたらあの組織からも…

K47Sでしたが、オペラハウスとトラックの荷台で乱射したのがイスラエルM1製のネゲフ軽機関銃。見た目がミニミそっくりなので、一目でネゲフと判別したアールは凄い(笑)

さらにチナツキャノンスペシャルですが、これは本作には珍しく架空のもので、ハンドガンサイズの中折れ式40ミリグレネードランチャー。その威力はパトカーを直立させます(汗)

またこのストーリーではルツのスナイピングシーンがありますね。もはやルツの代名詞でもあるあのライフルはブレイザーR93LRS2。使用弾薬の338ラプアマグナムはレームが使うM24ライフルの308口径よりおよそ2倍の威力があり、高威力長射程に特化した900メートルの狙撃も領ける一挺なのです。

第5話：キャスパー部隊

冒頭でココ部隊のメンバーがトライアルしていたのはXM8という興味非運なアサルトライフル。H&K社によっ

て開発され、米軍の正式採用一歩手前で覆された一挺です。どうやらココ部隊でも不採用に終わった模様。

さて、このストーリーで初登場となるココの実兄キャスパーの部隊なのですが、こちらもコミックスとは初期装備が一新されています。

ココ部隊ではチェストリグをメインに、必要に応じて防弾装備を追加するカタチをとっています。キャスパー部隊ではブレイトキャリアというそれ自体に防弾効果を持たせるものに、マガジンポーチを追加してレイアウトするというカタチになっていきます。

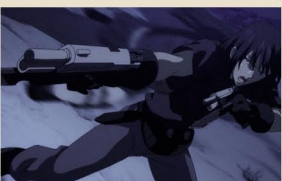
使われているのはイェーグル社製ブレイトキャリアで、カマーバンド付きのもの。ブレイトキャリア単体よりも、ポーチをレイアウトできる面積を拡張させたものです。ハンドガンを保持するホルスターはブラックホーク社製のSERPARETTグホルスターですね。

使用銃器はCCAT社のカリ社長と同じP90にイオテック社製のホ口サイズでドレスタップ。高橋先生自身、このような近未来チックなデザインの銃器がお好きだそうです。

第6話：大星海公司

南アフリカの地で、武器商人の私兵と偽装したPLA(中国人民解放軍)の部隊が衝突。この良い意味でのキナ臭さややはり本作の神髄でしょう。たまらないものがあります。

まずヨナの機転によりレームに殲滅されてしまう大星海会社の兵士ですが、アサルトライフルはガリルのSARのよう



実は存在するこの白いLBT-1961チェストリグ。使い所が正確ほとんどないのコレクターアイテムでしたが…今もし入手できたならそれって超ラッキー!?



バルメとの激しいマッチアップをみせた愛銃は、SIG GSRの二挺拳銃。このようなマウントを使ってプレードを装着。引き抜く際はトリハダ

スナイパーと スポッターの関係性

一般的にスナイパーというと孤高の存在で、一匹狼で単独で淡々と仕事をするといった印象で捉えられがちですが、実際のところスナイパー(狙撃手)にはスポッター(観測手)と呼ばれる相棒が必要で、基本的にはこの二人セットで行動することがほとんどです。

スポッターは主に風速やターゲットまでの距離、その他の狙撃に必要な情報をスナイパーに提供する役割を持っており、狙撃だけに集中するスナイパーには欠かせない存在。ココ部隊ではスナイパーであるルツに対して、ワイリがこのスポッター役となっている模様です。では同じく狙撃を得意とするレームは?

彼はルツのような純粋な狙撃手とは一線を画すスタンスなのかもしれませぬ。その辺は彼のバックグラウンドにヒントがあるかもです。

